

短期予報解説資料 2025年7月4日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 北日本は気圧の傾きが大きく、風の強い所がある。500hPa 5760～5820m付近の正渦に対応して雲バンドが日本海から連なり、トラフに対応して対流雲の発達域が移動。雷を伴い強い雨を解析。
- ② 南西諸島から東日本は、九州の南に中心を持つ高気圧に覆われて晴れている。300hPa等では上層の亜熱帯高気圧周辺の強い流れがあり、北日本～東日本～南西諸島に寒気や正渦をもたらし、大気不安定の要因となっている。



主要じょう乱解説図

- ③ 台風第3号は日本の東を北上している。一方、活発な対流雲を伴っており発達を見込む南シナ海の熱帯低気圧は、現在、動きは遅い。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフが寒気を伴って5日にかけて北・東日本を深まりながら通過する。北日本では、下層暖湿気や上空寒気の影響で5日にかけて、トラフ接近・通過時を中心に大気の状態が非常に不安定となる所がある。一方、東・西日本では、下層に流入している暖湿気や日中の気温上昇、東日本では上空寒気の影響も加わり、引き続き5日にかけて大気の状態が不安定となる。これらにより、北～西日本では、雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。北・東日本は5日にかけて、西日本では4日は、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。北～西日本では、5日にかけて落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。北日本は4日は強風にも注意。
- ② 大気的不安定な状態は6日も続くが、1項②の上層の亜熱帯高気圧の中心が黄海から日本海に移るため、東日本を中心に、不安定の程度は相対的に弱まる傾向となる。しかし、下層の暖湿気や日中の気温上昇の要因は続くので、北～西日本では6日は、山沿いを中心に落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ③ 南西諸島から東日本は6日にかけて、1項②の高気圧に緩やかに覆われ、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。また、北日本も下層暖気の影響で真夏日となる所がある。熱中症など健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ④ 南西諸島では高気圧周辺の下層暖湿気の流れや上空寒気の影響で大気的不安定な状態が続く。6日にかけて落雷や突風、急な強い雨に注意。台風発生・北上に伴う下層暖湿気の増加にも留意。
- ⑤ 台風第3号は6日にかけて日本の東を北上し影響は弱まる。1項③の熱帯低気圧は24時間以内に台風となり、その後も発達傾向。6日には亜熱帯高気圧の周囲の流れに沿って台湾付近を北上する。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ### 4. 防災関連事項【量的予報等】
- ① 雨量(18時から24時間)：東北・関東甲信100mm。
 - ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
 - ③ 高潮(明日まで)：東・西日本の日本海側では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。